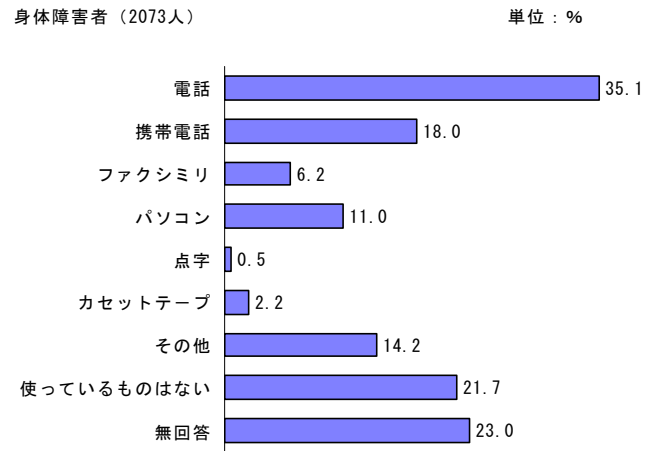


10 コミュニケーション

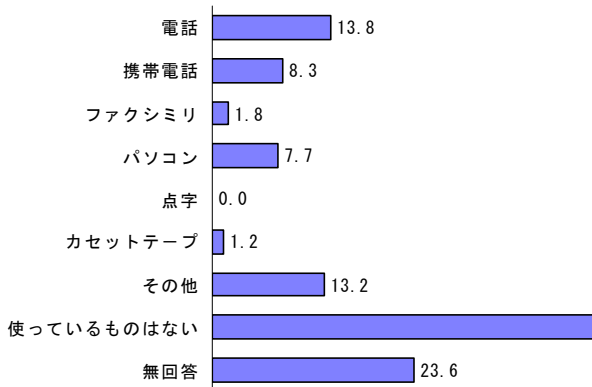
(1)情報の入手手段

情報を入手する手段は、身体障害者及び精神障害者では電話がともに 35～40%で最も多く、次いで携帯電話が20%前後となっています。一方、知的障害者では電話、携帯電話とも10%前後と少ない。

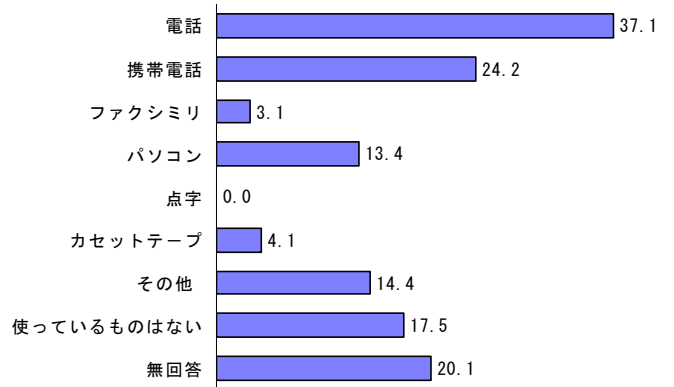
パソコンはいずれの障害でも10%前後となっています。



知的障害者 (326人) 単位：%



精神障害者 (194人) 単位：%



身体障害の種類別に見ると、視覚障害はカセットテープが20.0%、聴覚・言語障害はファクシミリが21.2%となっている。点字については、視覚障害者のうち8.5%の人が使

ています。点字については、視覚障害者のうち8.5%の人が使

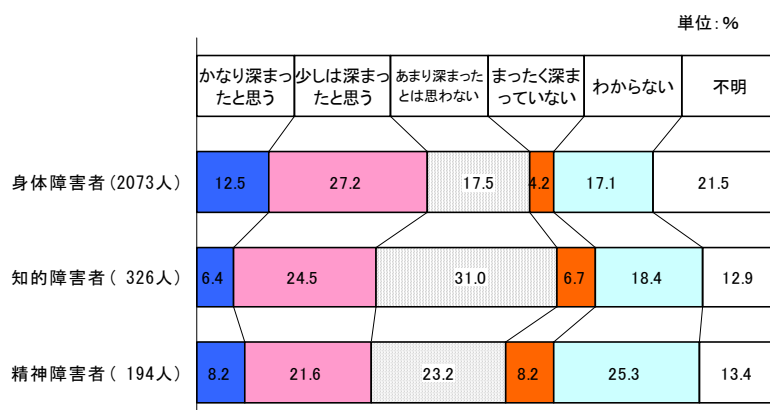
身体障害者	全体	問37 日頃の情報の入手手段									
		電話	携帯電話	ファクシミリ	パソコン	点字	カセットテープ	その他	使っていないもの	不明	
合計	2073 100.0	727 35.1	373 18.0	128 6.2	229 11.0	11 0.5	46 2.2	294 14.2	450 21.7	476 23.0	
障害の種類	視覚障害	130 100.0	41 31.5	17 13.1	4 3.1	13 10.0	11 8.5	26 20.0	31 23.8	24 18.5	27 20.8
	聴覚・言語障害	189 100.0	23 12.2	44 23.3	40 21.2	27 14.3	0 0.0	1 0.5	32 16.9	46 24.3	39 20.6
	肢体不自由	1015 100.0	383 37.7	175 17.2	54 5.3	106 10.4	0 0.0	13 1.3	142 14.0	238 23.4	218 21.5
	内部障害	591 100.0	238 40.3	123 20.8	27 4.6	72 12.2	0 0.0	5 0.8	75 12.7	113 19.1	139 23.5

(2) 障害者への理解の深まり

ここ数年で、社会全体で障害のある人への理解が深まったと思うかどうかたずねました。

「かなり」または「少しは」深まったと思う割合を合計すると、身体障害者（39.7%）、知的障害者（30.9%）、精神障害者（29.8%）となっています。

一方、「あまり」または「まったく」深まっていないと思う割合を合計すると、知的障害者で37.7%と高くなっています（身体障害者21.7%、精神障害者31.4%）。



(3) 障害者への理解が足りない場面

障害者への理解が足りないと感じる場面は、身体障害者では交通機関や建物が障害者の利用に配慮されていないこと、知的障害者では街中での人の視線、精神障害者では働く機会がそれぞれ最も多くあげられており、外出など生活において困っていることが反映されています。

